

近畿の環境団体をつなぐ情報交流会  
～次代を拓く活動をするために～

第4分科会

「ファンドレイジングという新潮流」

平成23年9月25日(日)

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

事務局長 江口 聡

第4分科会の流れ

I ミニ・レクチャー「ファンドレイジングという新潮流」

①はじめに

自己紹介 & しみん基金KOBEのご紹介

②『寄付する側』に求められていること

- ・慈善+使命の表明・未来への投資
- ・納税と寄付

③『寄付される側』に求められていること

- ・アカウントビリティ
- ・戦略的な資金調達方法

II ワークショップ

「『寄付する側』と『寄付される側』の想いがつながりあえるためには？」

①オリエンテーション

②アイスブレイキング

③ディスカッション

- ・寄付する立場で
- ・寄付される立場で
- ・双方の想いがつながるためには

④まとめと振り返り

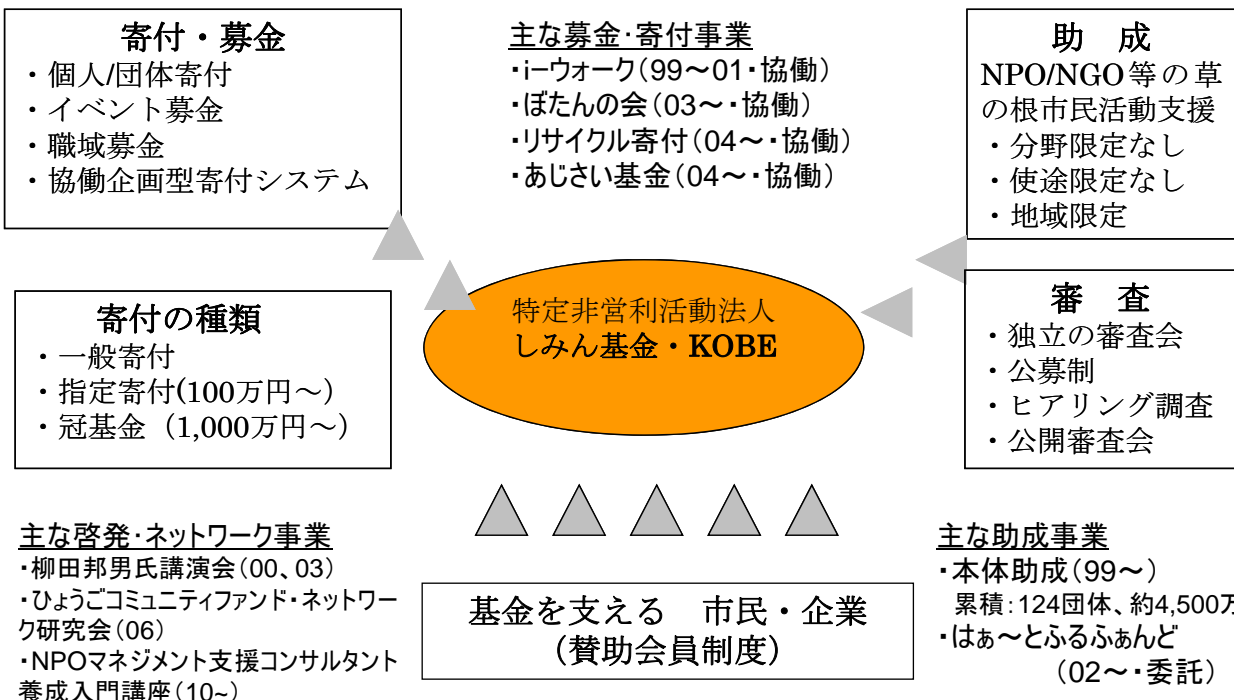
# ①はじめに:自己紹介

- 1963年生まれ 大阪出身
- 1986年 同志社大学経済学部卒
- 1986～2001年 ミサワホーム勤務
- 2002年ころ～ ボランティア活動  
 鶴殿ヨシ原研究所、カムナプロジェクト・・・  
 NPO研究  
 大阪NPOセンター・NPO大学院講座 → 日本NPO学会会員
- 2004年ころ～ CS神戸  
 「白いリボン運動」事務局 → 寄付への関心
- 2006年 「日本のNPO史」(今田忠氏編著、ぎょうせい)に執筆者として参画
- 2006年～ しみん基金KOBÉ事務局勤務 (2007年から事務局長)
- 2008年 「ファンドレイジングを考える集い」@大阪 → 鶴尾雅隆氏との出会い
- 2009年～ 日本ファンドレイジング協会発足
- 2010年～ 「NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座・西日本地区版」を  
 パナソニック社・パブリックリソースセンターと協働実施

# ①はじめに:しみん基金・こうべとは・・・



## ・ しくみと事業内容



## ②『寄付する側』に求められていること(1)

- 市民の”寄付”意識について
  - ・寄付文化の日米比較
    - 寄付したことのある人の人口比率(70~80%)は、日米であまり変わらない。
    - 日本では個人寄付が少なく、またそのひとりあたりの金額が1:88くらい。
    - 共同募金、赤十字、ユニセフ、24hTVなどへの集中
    - NPOへ寄付したいと思っている人:25%、実際にNPOへ寄付したことのある人:3%
  - ・社会の成り立ちの違い:「信頼社会」/「安心社会」  
→日本人の米国での寄付行動/米国人の日本での寄付行動
- グローバルな「お金」の流れ
  - ・都銀・郵貯・証券→投資(分散投資・金融工学)→米国短期国債→戦争;環境破壊・貧困
  - ・地域の顔の見える関係の中で、社会を良くするためのお金の流れは非常に細っている。  
(お金の流れの中央集権化)  
→「お金」とは何か?、ひとりひとりが「お金」とどのように向き合うべきなのか?

4

## ②『寄付する側』に求められていること(2)

- これまでの歴史を振り返ると~「公」を巡って
  - ・戦前のフィランソロピー「大正デモクラシー」  
→ 市民による公益的活動は比較的盛んであった
  - ・世界恐慌 → 国家総動員体制 → 15年戦争 ※総力戦、民族国家
  - ・戦後の高度経済成長:日本型福祉国家→「国家公益独占主義」:行政依存症
  - ・80年代ころ以降:価値観の多様化、官僚制の硬直化  
市民自らがオルタナティブな社会サービスを提供する「市民活動」の胎動  
→ポスト日本型福祉国家(「新しい公共」)への模索
- 日本における”フィランソロピー”の意識  
文部科学省小学校「道徳」指導要綱に出てくる表現  
「社会に奉仕する喜びを知って、(無償で)公共のために役に立つことをする。」  
↓  
これから求められる”フィランソロピー”像  
「社会を良くしていくために、個々人が貢献できる要素が必ず誰にもあることを知り、自らが行動を起こすことで、社会にとって必要不可欠な一員であることを実感する。」  
※ボランティアの価値:「言われなくてもする。言われてもしない。」(草地賢一氏)

5

## ②『寄付する側』に求められていること(3)

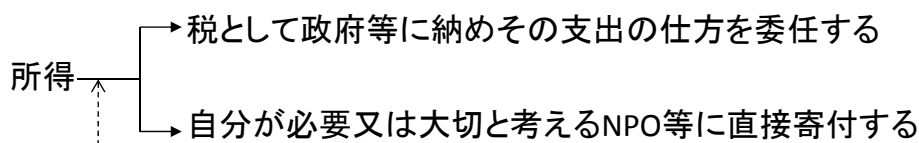
- ・2005年の「ホワイトバンド」が投げかけたもの Charity or Voice
- ・「使命多様性」(塩見直紀氏)  
いのちにはそれぞれの使命があり、存在はその縁の結び目である。自分の使命を静かな心で見つめなおし、自分の社会貢献への意思や願いを叶えるために、まずは自らの行動を変え、お金にその想いを託すことが求められている。
- ・「寄付は人生の軌跡」(=いろいろな寄付の動機) 恩返し+感謝  
①労働価値不均衡感、②愛する人への想い、③贖罪、④生きる力  
(公益社団法人日本フィランソロピー協会「まちかどのフィランソロピスト賞」)
- ・「純粹贈与」論:見返りは未来の社会が良くなること  
市場 ⇄ 交換、贈与、純粹贈与(ポトラッチ) (経済人類学)  
←ヒトは「お金」がないと何もできなかったのか?
- ・「地域通貨ゲーム・ワークショップ」が教えてくれること:負債は未来への資産として残る  
←「新しい公共」を具現化していくために必要な「お金」の機能とは?
- ・「寄付」は、「善意」+「使命の表明」・「未来への投資」

6

## ②『寄付する側』に求められていること(4)

### • 寄付と納税

2011年6月 新寄附税制の成立～所得税の税額控除制度導入



自分で決めることができる 算出所得税額の50%(国:40%、地方10%)まで

※補完性の原理:自分たちのことは自分たちです、国や地方公共団体には自分たちだけではどうしても出来ないことを補完してもらう

- ・市民社会における寄付金の意義を考え直すことが望まれる時代に!
- ・NPO等もSR(社会的責任)が問われることに!

7



### ③『寄付される側』に求められていること(3)

- 既存 & 潜在的支援者を分析する = 「相手を知る」

・「ドナー・レンジチャート」

【分析編】

→ 【戦略編】

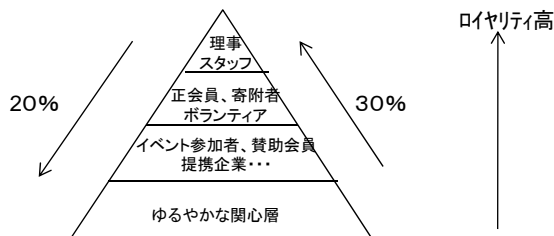
金額帯	人数	寄付金額合計	人数構成比	金額構成比
10万円～				
1～10万円				
3千円～1万円				
3千円未満				
小計				

目標単価金額	目標人数／候補者人数	目標寄付金額計
10万円～		
1～10万円		
3千円～1万円		
3千円未満		
小計		

- ・「2割の寄附者が総額の8割の寄付をしている」
- ・過去3年分程度を分析してみる
- ・異なるカテゴリーの支援層に対して、明確な戦略を持つ

- ・寄付ニーズを明確にして、カテゴリー別目標金額を設定する
- ・具体的に何名獲得するかを明確にする
- ・候補者を多めにリストアップする

・「ステークホルダー・ピラミッド」



- ・下層階にいる人を上層階へステップアップさせる仕掛けを日常の活動の中に組み込む(イベント、HP、ニュースレター)
  - ・支援者の支援理由を再評価する
  - ・理事・スタッフが常に意識するような雰囲気をつくる
  - ・既存のネットワークを確認する
- ↓  
「ファンドレイジング成功体質」への第1歩

10

### ③『寄付される側』に求められていること(4)

- 「(民間)助成金」というファンドレイジングについて

・民間助成財団等にもミッション(目的)があり、NPOはそのミッションを実現するためのパートナーという位置づけで考えられている。

→「相手を知る」: 募集要項の熟読、過去の助成実績の分析、各要件の意味を考える

・少ない資金提供で大きな社会的成果が出ることを期待している、競争的資金である。

→行政の補助金・委託金[＝税金]とは違う。

→感動・希望、企画力、説得力(整合性)が求められている。

一般的には先駆的な調査やモデル構築などに助成される傾向が強い

・団体の管理費的な資金は助成されにくい。継続助成も難しい。＝事業助成が主流

→NPOの自立性・継続性を阻害する。

※最近では、組織基盤強化を目的とした助成プログラムもある。

ex パナソニック: NPOサポートファンド、

大阪NPOセンター: 市民社会創造基金“志”民ファンド

11

## まとめ(1)

- 「ファンドレイジングが社会を変える」(鶴尾雅隆 三一書房 2009)より

### [7つの原則]

- ①ファンドレイジングを「単なる資金集めの手段」ではなく、「社会を変えていく手段」として捉え直す。
- ②ファンドレイジングは、「施しをお願いする行為」ではなく、社会に「共感」してもらい(右脳)、自らの団体の持つ「解決策」を理解してもらう(左脳)行為である。
- ③「よい活動をしているのに寄付が集まらないのは、社会が成熟していないからだ」という発想を捨てる。
- ④大きな支援を得るためには、「釣銭型寄付」のパラダイムのみならず、「社会変革型寄付」のパラダイムを念頭に置く。
- ⑤日本には寄付文化がないのではなく、寄付の成功体験と習慣がないにすぎない。
- ⑥活動の質を高め、適切なマネジメントを行うことは、良いファンドレイジングの前提である。
- ⑦日本の寄付市場の大きな変化の流れに乗る。

12

## まとめ(2)

- 私からのメッセージ

・「新しい公共」を支えるには、**ボランティア精神**(=自分たちの社会は自分たちで支え合いながら分かち合いながら良くしていく=Light Work\*)の確立が必要不可欠である  
←震災の教訓:自助・共助・公助のバランス

※市場の失敗(環境問題等)・政府の失敗(政官財の癒着等)・ボランティアの失敗

→ボランティア・セクター(コミュニティ)が市場や政府を支えている。

・仏教におけるお布施のように、3者(提供者、お金そのもの、受領者)が清浄であることが、社会の中でのお金の流れを変える前提として、求められている。

・市民自らが、多様な「いのち」の存在を尊重し、お互いの「こころ」を育み、未来へ続く暮らしを創造するために、新しい市民社会へ贈り物をしよう。

\* 4つの仕事: Rice Work, Like Work, Life Work, Light Work

「人間がなしえる最も素晴らしいことは人に光を与える仕事だ」

13